

「組織における意思決定―日中比較政治の視点から―」

新潟大学法学部教授 真水 康樹 先生

「政策決定」は、私の専門である政治学の重要なテーマのひとつです。政策決定は、政府や県庁・市役所だけのものではなく、企業、大学、組合、あるいは親睦団体まで、おおよそ複数の人間が集まる組織にすべて存在する問題です。そして、政策決定と政策決定メカニズムの良し悪しは、その組織の発展や存亡と大きくかかわることになります。その意味では、政策決定とは、あらゆる組織に共通する重要な関心事と言えるでしょう。別の言い方をすれば、良きリーダーシップとは、組織に必要な大事な政策を決定する力であり、それを実行する能力であると言えます。政策決定は、リーダーシップの要でもあります。日本では首相の意思さえ実現が保障されないばかりか、毎年交代するその地位の軽さは絶望的な様相です。他方、中国政治のリーダーシップは一見とても強力にみえます。日中の違いの実像も交えながら、政策決定の意義についてご紹介させて頂ければと考えています。

【略歴】

真水 康樹（ますい・やすき）

新潟大学法学部教授 北京大学国際関係学院客員教授 1959 年生まれ。

中央大学法学部卒業。北京大学歴史学部大学院博士課程修了、歴史学博士。

新潟大学教養部助教授をへて、1997 年より現職。

専攻は中国政治、中国史。

単著に『明清地方行政制度研究』（北京燕山出版社）、『中国周縁の国際環境』（新潟日報社）、

『外交から読み解く中国政治』（新潟日報社）、

共著に『政治と行政のポイエーシス』（未来社）、『中国的発展と 21 世紀的国際格局』（中国社会科学出版社）、

訳書に牛軍『冷戦期中国外交の政策決定』（千倉書房）、共訳に、A.コーン『競争社会をこえて』（法政大学出版局）、

趙全勝『中国外交政策の研究』（法政大学出版局）がある。